

管理会計論

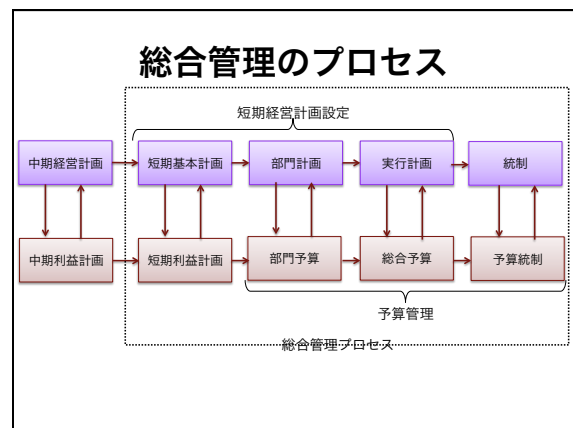
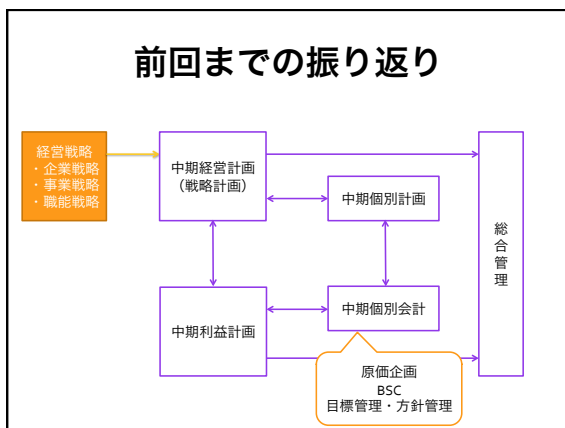
短期利益計画

agenda

- 前回までのふりかえり
- 戦略計画の実行と総合管理
- 短期経営計画・利益計画
- 短期利益計画と目標利益
- CVP分析
- 限界利益分析
- 価格決定と限界利益分析
- まとめ



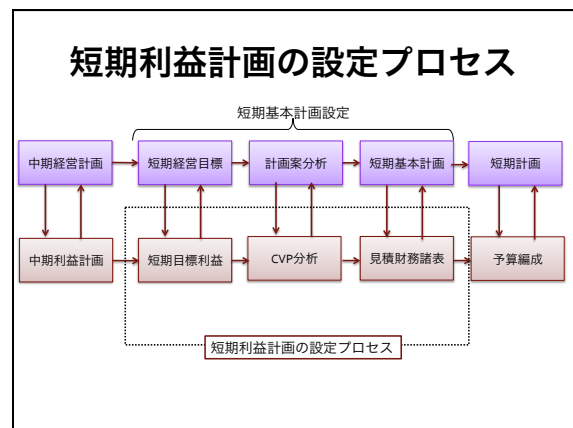
永守重信
日本電産創業者
「高い目線と低い固定費」
「異端者を評価しない会社も問題です。ちょっと変わった人間が世の中にもいないものを生み出している」



短期経営計画と短期利益計画

$$\text{資本利益率} = \frac{\text{利益}}{\text{資本}} = \frac{\text{売上高} - \text{費用}}{\text{流動資産} + \text{固定資産}}$$

$$= \frac{\text{利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{資本}} = \text{売上高利益率} \times \text{資本回転率}$$



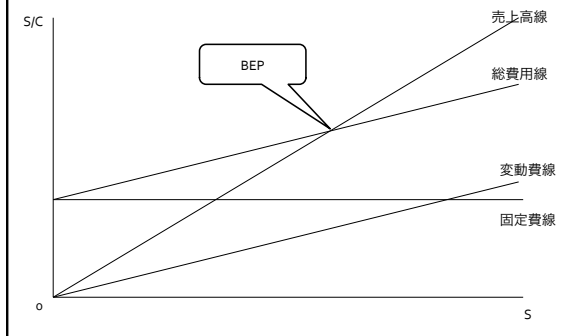
目標利益の決定

配当金 (優先株+普通株)	100万円
内部留保(利益準備金、各種積立金他)	150
税引後純利益	250万円
法人税等引当額 (税率50%)	250
年間必要利益	500万円

CVP分析

- 損益分岐点(BEP: Break-Even Point)
- 変動費(variable cost)
 - 売上に比例して増減する費用
- 固定費(fixed cost)
 - 売上とは無関係に発生する費用
- 限界利益率
 - 1-変動費率 (売上単価から変動費単価を引いた利益の割合)
- 利益公式 (ネッペル)
 - 所要売上高 - 目標利益 = 許容原価

損益分岐点図



限界利益分析

- 無関連原価
 - 固定費が代替案によって変化しない
- 埋没原価
 - 投資案に関わらず発生している原価

不採算事業から撤退すべきか

	事業A	事業B	事業C	全社合計
売上高	1,000万円	300万円	1,700万円	3,000万円
製造原価	600	150	1400	2150
販管費	100	50	500	650
営業利益	300万円	100万円	-200万円	200万円

貢献利益法

	事業A	事業B	事業C	全社合計
売上高	1,000万円	300万円	1,700万円	3,000万円
変動費	400	100	1,000	1,500
限界利益	600万円	200万円	700万円	1,500万円
固定費				650
販管費				650
営業利益				200万円

事業Cの撤退は行うべきだろうか。